

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101125		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホーム王喜の郷		
所在地	山口県下関市王喜本町6丁目1番12号		
自己評価作成日	平成27年1月26日	評価結果市町受理日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者、ご家族、職員のつながりを大切にしています。 2. 利用者ひとりひとりのペースに合わせ、ゆったりとした生活時間を過ごして頂いています。 3. 職員は、本人、ご家族の意向に沿い、また医療機関の協力を得ながら、利用者を最期まで支えます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の参加者の見直しに取り組み、今年度から自治会長や民生委員など参加メンバーを増やしてられます。利用者の状態から外出の支援が困難になる中、法人内事業所での行事に参加する機会を設けられている他、利用者の散歩にJA女性部の協力を得るなどの工夫をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲示し、職員間で共有している。「ここにあります。いつも安心、住み慣れた町での楽しい生活」を理念とし、利用者ひとりひとりが地域で安心して楽しい生活が送れるよう支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示して共有し、理念を目標として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭など法人がで店を出しており、利用者も見学に行くなど、地域行事に参加している。法人内の誕生日会では、保育園児との交流(年2回)、グループホームで月に1回、昭和レトロコンサートを開き、地域住民の参加(毎回10名～15名)がある。	地域の夏まつりや支所で開催される文化祭に法人が参加し、利用者が見学に行っている。法人内で2ヶ月に1回開催している誕生日会に参加し、年2回保育園児と交流がある。事業所で月1回、法人で月1回行う昭和レトロコンサートに地域の人が参加して、交流している。JA下関女性部のふれあいボランティアが来訪し、利用者の散歩や話し相手になっているが、日常的に地域の人と交流しているとはいえない。	・地域との交流の機会の拡大
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昭和レトロコンサートでは、地域の方に認知症の方の暮らし方や生活を見て頂いている。また運営推進会議のメンバーにも認知症の方の暮らしぶりを知って頂くようにしている。グループホームの食堂で会議を開催し、入居者全員が参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解した上で、職員が分担し、自己評価に取り組んでいる。	自己評価は職員に意義を説明し、項目ごとに職員が分担して記入し、運営者のアドバイスを受けて管理者がまとめたものを職員間で確認している。目標達成計画に揚げた職員の資格取得に取り組み、2名が合格しているなど、改善に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、1. 利用者の現状報告、2. 日課や行事の報告、3. 年間でのテーマを決めて報告したり、意見を聞いたりする。自治会や民生委員など地域住民の方の参加が多いので地域で起こっている事、また知っておいて頂きたい事の報告もある。	今年度から自治会長や民生委員など参加メンバーを増やし、法人他事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。現状報告、行事報告、苦情報告、外部評価結果報告などを行い、災害時の協力についての検討などを行っている。、会議をサーブす向上に活かしているとは言えない。	・会議をサービス向上に活かす工夫 ・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に電話や直接出向いて相談や助言を受ける。また地域包括支援センターの職員には、運営推進会議の際に、相談や情報交換をし、協力関係を築いている。	市担当者とは、報告や申請時に直接出向いたり、電話で相談し助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に相談や情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合を除き、行っていない。やむを得ない場合は、ご家族から必ず書面にて同意書を頂くようにしている。遡って5年間はない。また日中は玄関の施錠は行っていない。	身体拘束をしないケアの実践に努めているが、スピーチロックやドラッグロックを含めて、全職員が身体拘束について理解しているとはいえない。玄関の施錠はしていない。	・身体拘束についての研修の実施
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の内部研修で年2回、虐待の勉強を行い、事業所内でも2か月に1度勉強会を開いている。また職員間のコミュニケーションを図り、職場の人間関係をうまく行うようにしてストレスの軽減を図っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、懸案事項として行政書士の方から話を聞いたり、運営推進会議での議題にしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問等に対し、十分に説明を行い、納得した上で署名を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に参加して頂く運営推進会議や家族会時、また面会時に意見、要望を聞いている。第三者委員をまじえ、年4回法人全体で苦情検討会議を行い、反映している。体制作り、資料の掲示も行っている。	面会時や運営推進会議時、年4回の家族会や行事の参加時に家族からの意見や要望を聞いている。行事への参加を呼びかけたり、面会時に利用者の最近の様子を伝えて、家族が意見を言いやすいよう努めているが、意見はあまりでない。	・意見を聞く機会を増やす工夫
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、職員に意見を出し合ってもらっている。意見・希望の言いやすい体制、関係性を構築し、意見を出せるよう行っている。	月1回の職員会議で職員の意見提案を意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも職員の意見を聞いている。風呂場の滑り止めを買い替えたり、利用者の楽しみのための観葉植物を購入するなど、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの整備等、職員が目標を持ち、知識・技術の向上に努める事の出来る体制作りを行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、案内の配布も行い、参加を促している。外部・内部研修共に参加出来るように勤務を作り、長期間の研修にも出席出来るよう機会が与えられている。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は職員会議で報告して内容を共有している。法人研修は各事業所の研修委員が検討して企画した内容で月1回実施し、参加した職員が職員会議で報告している。内部研修は2ヶ月に1回職員会議で、担当職員が講師となって勉強会を実施している。資格取得のための支援を行い、2名の合格者を出している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、施設の交流会に参加し、交流を持つようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	色々話しかけ、観察していくことで不安・要望を聞き、反映し安心出来るよう行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活の中での困ったこと、不安、これからの要望をこちらから話しかけていくことで、言い易い関係性の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、アセスメント、ご家族への聞き取りを行い、必要とされる支援を見極めている。グループホームが好ましくない場合、ケアハウス、小規模多機能また在宅での生活を勧めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの潜在能力を活かし、家事を協力して行う等、一緒に行っていく関係性を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の介助や外出、買い物等の協力をお願いし、共に支えていく関係作りをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近所の方の来訪、自宅への外泊、ドライブ途中の自宅訪問等関係が途切れないよう支援している。	家族や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、年賀状や電話での交流を支援している。病院受診の際に自宅近くをドライブしている。家族の協力を得て法事への参加を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での気の合う人や助け合う関係の人等を把握、支援し支え合えるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院となった場合等、訪問を続け、相談支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメント、日々の会話から要望や意向の把握に努め、職員間で話し合い、共有している。	入居時のアセスメントで本人や家族から情報を得ている。日常の関わりの中で、利用者について気づいたことを職員間で話し合って把握に努めているが、十分とはいえない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメント、ご家族からの聞き取り、日々の会話や行動から把握し、よい生活が送れるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常家事や様々な生活活動と一緒にを行うように提案し、本人の「できる能力」を職員が日々の行動、会話から観察、把握、記録し職員全員で共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族、医師等の意見を参考にし、月1回のケアカンファレンスを行っている。現状に即した介護計画を作成し、評価、見直しを行っている。	月1回ケアカンファレンスを開催し、計画作成担当者が、本人や家族、主治医、職員の意見を参考に、介護計画を立て、6ヶ月に1回見直しを行っている。モニタリングが十分でなく、介護計画が日常のケアの実践に反映されない。	・現状に即した介護計画の作成
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の生活の様子、健康状態、排便、水分の摂取量等記録し、職員間で共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対し、職員間で話し合い、検討し柔軟に対応していけるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、その他いろいろな組織の方がボランティアとして来訪されたり、定期的に情報交換を行い、安心、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、連携を密に図っている。月1回の協力医療機関の往診がある。受診結果等の情報を共有し、急変時の対応等適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医に家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関から月1回訪問診療がある。受診結果は日誌に記録して職員間で共有し、家族には必要に応じて電話で報告している。緊急時は協力医療機関の協力を得て、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は健康状態を把握しており、ご家族やかかりつけ医への連絡も行っている。また受診、入院時の相談も含めて介護上の健康について中心になって行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に、退院後の引き受けを施設となることを伝えている。出来るだけ早く退院して頂けるように願っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで支援する方針があり、実際に重度化した場合には、本人、ご家族と話し合い、本人とご家族の意向に沿うようにしている。可能ならば終末期を自宅で過ごせるように支援し、その場合もご家族に任せるだけでなく、事業所や医師、ご家族、地域等のチームで支援に取り組んでいる。	家族会で「私の生き方連絡ノート」に重度化した場合の意向を書いてもらうように家族に勧めたが活用には至っていない。実際に重度化した場合は、本人や家族の意向を尊重した支援を行うよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	予想される危険性は介護計画の中に取り入れている。またヒヤリハット・事故報告書を作成し、職員が共有してひとりひとりの事故防止に取り組むように努めている。また法人内にて危機管理委員会を開催している。急変時の対応については、内部研修で身につけるように取り組んでいる。	事例が生じた場合は、事故、ヒヤリハット報告書に記録し、法人の危機管理委員会に担当職員が報告し、検討している。応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練が十分とはいえない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害対策は法人全体で行っている。食物の備蓄は商店の協力が得られる様にしている。	年2回、法人事業所が合同で昼夜を想定した避難訓練を利用者も参加して実施している。運営推進会議で地域の人参加を呼びかけたが、参加を得るには至っておらず、地域との協力体制を築いているとはいえない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人の声の掛け方は、人格を考え、尊重しながら対応している。	法人の接遇研修で学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。管理者はその場で気づいたことを注意し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人の希望を尋ねるよう、働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの人の気分、体調、健康状態に合わせて支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、温タオルで顔を拭いて頂き、髪をとかし、着替えを支援している。ご本人の意思を取り入れ、支援の必要な方には支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食作りでは、献立を利用者と考えながら、準備から片付けまで行っている。	炊飯は事業所で行い、副食は3食とも法人の配食を利用している。日曜日の昼食は利用者の好みを取り入れて献立をつくり、利用者と職員と一緒に調理や盛付け、片づけなどを行っている。季節に合わせて中庭でお茶会をしたり、誕生会でのケーキ、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量の調整、水分の摂取量のチェック、刻み食、お粥、おやつ、補助食品など、管理栄養士と密に連携をとり、各人の体調を考えながら支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後の2度、各人に応じた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を毎日記録している。本人の排泄パターンを職員は把握している。それに基づき、誘導を行っている。	生活リズムパターンシートを活用して排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、十分な水分摂取、食事を摂ってもらうように心がけている。体操をして体を動かし、排便を促している。排便なしが続く場合看護師へ報告、相談する。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日々入浴時間は、同じ時間に決っている。その日の体調や気分に合わせて、支援をしている。全身の皮膚の観察も行っている。	月曜と木曜の14時から16時の入浴時間に、3日に1回入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴の支援をしている。入浴剤を使用したり柚子湯を楽しむこともある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、清潔な寝具を使って頂くよう心掛けている。気温・湿度にも気をつけ、居室温度を配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変化があれば、すぐに申し送りをする。飲み忘れがないよう職員間で確認している。服薬がスムーズに出来ない時は、時間を空けたり、職員が代わる等し、対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族を交えて話をしたり、本人の色々な記憶や家族の本人についての記憶を聞くようにしている。それを基に支援を行ったり、状況を見ながら、その都度支援を行っている。	月1回のレトロコンサートとお茶会でレコードをかけて歌う、ラジオ体操、ゆったり体操、ボール投げ、豆まき、テレビの視聴、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は難しいが、天気の良い日には、声掛けし、外気浴や散歩に出掛けている。年に2～3回ご家族の協力のもと、全員で戸外へ出かけたり、地域の方から声を掛けて頂き、自宅訪問も行っています。	河川敷へ桜の花見、紅葉狩り、地域の文化祭や夏まつりへの参加、JA女性部の協力を得ての散歩、近くのスーパーや商店での買物、法人事業所の行事への参加、家族の協力を得ての外泊や外食、法事への参加などを支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が可能な方はされているが、お金を使用する際は職員が同行している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は手紙を書かれる方はおられず、ご本人宛にお便りが届いた時は読んで頂くようにしている。要望があれば電話をかける事もある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節にちなんだ壁画飾りや花・緑等を置いて、居心地良く過ごせるようにしている。	窓からは庭の植栽や花を眺めることができ、壁には利用者の折り紙作品や行事の時の写真を飾り、広い廊下にソファを配置してくつろぐことができるよう工夫している。季節によりウッドデッキでお茶を楽しむことができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて、独りになる場所や気の合う利用者同士が過ごせるよう設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者馴染みの家具、写真、人形など持ってきて頂き、ご本人に居心地良くして頂けるよう工夫している。	鏡台やソファ、趣味の茶道具や縫いぐるみ、雑誌などを持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来る事はして頂き、困難な事があれば、職員と一緒に工夫しながら安全に自立出来るようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム王喜の郷

作成日：平成 27年 6月 11 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、全職員が必ずしも理解しているとは言えない。	スピーチロックやドラッグロックを含め、全職員が身体拘束について理解ができる。	事業所内で身体拘束についての研修を行う。	1年
2	35	事故発生時に備え、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない為、実践力が身に付いていない。	全職員が応急手当や初期対応ができる。	事業所内で応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施を行う。	2年
3	36	災害対策として地域との協力体制が十分に築けていない。	地域住民の協力を得て、入居者と一緒に訓練ができる。	1.運営推進会議にて再度協力を得る。 2.避難訓練の計画を早めに立て、地域住民が参加しやすくする。 3.避難訓練への地域住民の参加。	3年
4	5	運営推進会議を2ヶ月に1度開催しているが、質疑や助言、意見等を活用したサービス向上まで至っていない。また議事録の工夫ができておらず、見づらい部分がある。	質疑、助言、意見等を活用し、サービス向上につなげる事が出来る。つなげた後、再度会議メンバーへの報告を行う。	1.会議メンバーの見直しを行う。 2.意見の出やすい場面づくりや議題を取り入れる。 3.事業所内の会議の議題に盛り込み、話し合いの末、向上につなげる。 4.分かり易い議事録の作成を行う。	2年
5	27	現状に即した介護計画の作成がなされておらず、モニタリングも不十分である。	1.状態に変化が生じた場合に状態に即した介護計画、モニタリングの作成が出来る。 2.介護計画が日常のケアの実践に反映できる。	事業所内の会議にて入居者の状態の把握を行うと共にモニタリングをし、介護計画の作成につなげる。	2年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。